

F E A T U R E S ☆ O F ☆ T H E

見渡してみても、バレイアーツのようなギターは、まれではないかと思えます。私達の製作過程は効率や合理性、あるいは妥協などははずいぶん離れたところにあるのです。それは、理想じみた素材と腰のすわった丁寧な仕事、そして追われることのない時間の集積が産み出す、選別主義的な方法だといえます。たとえば、フィニッシュ。このカタログで御紹介するギターは例外なく、ニトロセルローズ・ラッカーだけで塗装されています。ラッカーそのものはバレイアーツ・オリジナルレシビにしろい、塗料の先進国であるアメリカでカスタムメイドされたもの。純粋にギター用として開発された、唯一のラッカー。なのでそのしなやかな塗膜は、ネックやボディによく馴染み、微妙なニュアンスと艶やかな音色をあざやかに表現します。しかし、この優れた特性を発揮させるためには、実に長く複雑な工程が必要なのです。専用の溶剤で希釈されたラッカーは圧縮空気により、霧のようにごく薄くボディに吹付けられます。一昼夜の乾燥期間を経てふたたび、一日にたった一度の吹付けが繰り返されます。このサイクルが36回、つまり36日間かけてやっとギターの塗膜が形成されるわけです。この期間中にも着色やレタッチ、中間研磨といった重要

The Valley Arts Acoustic

is a great guitar in the

tradition of great

guitars... and great guitarists.

Every component is conceived

for no other purpose than to

A C C O U S T I C ☆ G U I T A R

a clearer path to

self-expression,

and then tested time

and again to see

that it meets that purpose.

Wamoth

米国ワームス社がネック製作のスペシャリストであることは言うまでもありません。製法は主に、著名なカスタムビルダーへ供給されていますが、その材質や形状はそれぞれの選択によって異なり、勿論その価格にも大きな差があるわけです。私達は次のようなハイレベル仕様でオーダーしています。ネック材はパーズアメイブル。鳥眼筋のある美しく稀少なメイプルです。指板は十分な厚みを持つ、黒く染めにくい自然のままのエボニーとして、フレットワイヤーはサムドラゴンの6130、ミリアンダジャンボ型スチールフィンガーリングとクリアなチョーキングを見事にこなせるすぐれものです。グリッパは私達だけのカスタムシェイプを造りました。その形状は少し丸みを帯びたトライアングル型であり、グリッパカーブの頂点は、おぞろしく弦面に響いています。こうすれば細いゲージの高音側と太いゲージの低音側の両方バランスをアジャストすることができるのです。くわえて、人間の手のひらが左右対称ではないことが、このスタイルを産み出した、もう一つの理由でもあります。実際にプレイすれば、とても滑らかでスリムなフィールと強固な剛性を両立させていることがおわかりいただけるでしょう。私達は、私達が最上と考える、独自のネックが必要で、ワームス社はその理想を実現する、ベストパートナーだと考えているのです。

EMG

ピックアップにブリアンブを、最初の内蔵したのはEMGでした。ローインピーダンス設計のこのブリアンブによって、ピックアップの根源的な疑問は一掃されることになりました。第一の成果はノイズをシャットアウトしたこと。おかげで、弦アースさえも不要となったのです。また、最大ゲインを引き出したとしても、高域の劣化は気になりません。更に、レコーディング用のモニタリングコンソールやラックエフェクトシステムへダイレクトに接入しても、インピーダンスのマッチングをとることができるのです。ブリアンブはマグネットやコイルとともに厳重なシールドに包まれ、エポキシ樹脂を真空充填させたハウジングに収められます。つまり、フィードバックを抑えたクリーンでタイトなパフォーマンスを実現しているのです。私達はハンバッカーなら85、シングルコイルならSAを標準仕様として、共にアルニコ磁石を用い、その特有のウォームなスムースネスと互いに組み合わせた時のつなりの良さをも特に評価するためのです。SA/SA/85はEMGの一つのピークを形成する、すぐれたコンビネーションでしょう。SCEにはピンチエッジ指向のSVをアップグレードしています。はつきりとしたリングングハーモニクス、バークリップなミッドレンジが特長です。他のモデルについても、御希望に合わせてアップグレードいたします。御相談下さい。

BADASS II

バダスIIはネジ止めすれば、セッティング完了というタイプのパーツではありません。むしろ、かなり手のかかるブリッジだといえます。たとえば、サドルには張りがなく、その加工と調整は手に乗られています。あるいは、特徴的な美しいブラックホムにピンコードを配置する一方で、弦のハリやアタックの感度がガラリと変わります。というよりは、理想的サウンドに合わせ、御希望ではない最適のチューニングを追求できる、すなわち、ユーザーフレンドリーであるバダスIIを見ることができただけです。私達のベースのスパックとした音抜けの良さは、このあたりがけっとう知っているようです。

bartolini

バルトリーニの製品群の中でも、やはりベース関連のプロダクトは十分に研究され、練上げられた印象を受けます。バレイアーツのチョイスはピックアップも9WA、ブリアンブはXTCTとなり、9WAは1-2弦と3-4弦を真横巻にした完全なハンバッキング構造。XTCTのトレブルをくっつき持ち上げても、ノイズは気になりません。95は少し太いPBよりの音色なら、この9WAはジャズベースのニュートラルサウンドに特長です。意外にも非常に豊富なオピビッド風味でもあります。XTCTは実用性が極めて優れやすく、ナチュラルなキャラクターのため、パツパツにスウィッチングしても音質劣化がほとんどありません。

V A L L E Y A R T S

な工程が織り込まれており、塗り上りのあとは更に30日の自然乾燥期間を設け、ゆっくりと寝かせておこなねばなりません。しかも、組立てまでには最終研磨やバフ仕上げに加えて、カルナバワックスをコーティングする手磨きの工程が待ち受けています。塗装に入ってここまでは約80日間。ポリエステルなどの一般的な化学硬化型の塗装なら、わずか十日の道のりに過ぎません。その八倍もの時間が、のぞきこむような深い表情をギターに与えるのです。塗装は本来、機械化できる割合の少ない仕事なのだと思います。手を傷つけないければ出せない、味わいが欲しい仕事でもあります。それは一本たりとも同じものがない、という木のおもしろさによるものでしょう。バレイアーツがハンドメイドギターである理由がそこにあります。塗装の他にも、製材に始まり、加工、研磨、ピックガード等の製作や配線、組立、調整に至るまでの全工程は私達自身の一貫した「手仕事」が基本。そうやって始終、木肌を撫でているとそれぞれのギターの個性が、自ずと明らかになっていくものです。その微妙な違いに敏感でなければ、生きたギターにはなりません。真価を弾き合わせる手強いプレイヤーを相手に、キリキリと張りつめた神経で、ビシリとバレイアーツがお応えします。

SPECTACULAR! Spectatop

良い木材が私達の周囲から、すみやかに染みつつあります。もともと絶対量が限られていたキルテッドやフレームメイブルのトリプルクラスなどは、いかにサイフのひもをゆるめようとも、あるいは口うるさくグレードを指定しようとも思うものを得ることができなくなりました。それだけに「これは！」という素材に出会えたなら、作り手としては思わぬ力が入るといってもいい。じっくりと我が子を育てるように愛情をこめて、熟練の技で仕上げます。「技」といえば「エクゾトップ」。厳選した極上のメイプル板を軽量スワンプッシュのベース材にピッタリと貼り合わせました。プレイヤーのポジションがボディにあたる位置はカッティングカーブ通りにメイプル板を曲げてあります。これは無理やりの力づくではなく、「ヒートベント・メッド」つまり、ゆっくりと熱を加えながら安定したカーブを形成する工法で加工しています。ダイレクトに熱が伝われば、木材はより乾燥度を高め、振動体としての特性を向上させることができます。スワンプッシュの豊かなアコースティックボイスと切れ味あざやかなハイアクトを特長とするエクゾトップメイブルのコンビは、とても新鮮なサウンドブレンドとなりました。いさか斬新い発見めいた結論ですが、貴重な素材を活かす技術はすぐれた音色に繋がっていたのです。ソリッドボディが変わりました。

Floyd Rose

トレモロに革命的な「スティン・チューニング」の思想を持ち込んだフロイド・ローズ。現在ではそのパテントがライセンス化され、多くのパーツやギターのメーカーによってさまざまなロックシステムがトレモロの思想から作られています。フロイド・ローズ氏もドイツ・シャナー社で自身の設計による、ユニートをフロードレスし、オリジナルとしての特長を示しています。私達は採用しているこのスーパーユニット、さすがにオリジナルのものとは一味違う味が光ります。インストメイト調音と選別処理による厚手に強く、響きの良いベースプレート。鉛を調音に焼き固める。焼結法を用いたサドル。小型化されたブロックの質量をリカバーするために高比重のプラスを使用したり、正確に伸縮するスプリングをわざわざ作らしたり等々。とにかく、なるほどリジッドと称される出来映えとなっています。しかしその固けたいポイントも、マウントすべきボディ側の設計がおきかたでは真価を発揮することはあります。なかも、支点であるスタックの取付位置は特に重要な設計ポイントとなります。それは、スタック位置がリアピックアップとサドルのポジションを決定し、さらにボディの共振モードやハーモニクスなどの音色の領域まで及ぼすからに他なりません。繰返します。バレイアーツなら音色も音も最適なセッティングが可能です。

Wilkinson

多くのプレイヤーがあのピンチエッジはトレモロに負うところが大きいことを知っています。しかし、ライヴゲージがあたりまえの現代では、チューニングをうまくキープするのは至難の技となりました。ウイリキンソンVSVトレモロは、ピンチエッジトレモロに潜むメカニカルな問題に先をみて、材質や重量、サイズに影響を与えず、サドルを固定した支点を鋭いアイフェイスとして、スムーズなアクションを可能としました。また、トレモロアームは素晴らしいセッティングのブッシュインタイプとなり、彫刻的なブロック内でのアーム折れを防いでいます。トレモロのトレモロに追加の強化が加えられています。おすめです。

Digitax

ワームスが、ダブルエキスパンド・トラスロッドを仕込んだコンテンボラー派のネックなら「タイトクス」は伝統的なシングルロッドのピンチエッジ派に色分けできます。基本構造はオーソドックスで命をてらった所なありませんが、そのボンシャルは強力です。すぐれた乾燥技術と駆使して、使用材は固けたい強度を獲得し、同時にかなり比重を下げています。ピアノハンマーによる音質チェックでは明るく遠くレンジと豊かな音量を確保することができました。また、指板を見れば、精密加工技術のすばらしさを実感できるでしょう。質の高さに応じたプライスを覚悟せねばなりません。またない価値を持つネックなのです。

Valley Arts Guitar introduce

the New f-hole Guitar in 1994

and offer it with a 17-inch

body width. Our goal is

to make the entire guitar

out of wood, and to that end, J A Z Z ☆ G U I T A R

we use wood for the tuner buttons,

herringbone bindings, tailpiece,

pickguard, and pickup mounting

rings. The light body finish is

a gleaming contrast to the

dark shade of ebony parts.

満を持してのエフホール。既に世にある著名名をリメイクするだけでなく、もっと早くリリースできたでしょうが、我々の思い込みがそれを許しません。アーチトップギターが好きで好きという方ならそれで頂ける。納得のフィーチャーがあります。肝心のボディへの選りについて説明しましょう。ボディトップは40mmもの厚みのソリッド材から微少なカーブを削り出して作られています。フレット板が均一の厚みであるのに対して、削り出しなら共振しやすいうように内部の厚みを減らすことができるのです。つまり、鳴らすべくところは盛大に鳴らし、止めるべきはそうにして、自在なチューニングを可能としました。材質はマホガニーとスプルースの二種類を用意。フルアコのリギュレーターともいえるスプルースは、豊かな音色をさすがに見事なバランスで響かせてくれ

ます。新鮮なのは、マホガニー、レンジを広げた、フレッシュな高域と「しかりとしたボトム」の絶妙なブレンドに驚かされます。ダイナミックなパワープレイはもちろん、ボリュームを絞った可憐なコードワークも、うっとり響かせることができるのです。木の持つナチュラルなトナーリティーを求めて、ブリッジやテールピースを始め、ピックアップ、エスカッション、糸巻のノブに至るまで、エボニー削り出しのパーツを豪華に配しました。せっかくのボディだから、細部にも目を光らせていたのです。ピックアップはリンディ・フレイリー(L.S.A.)の「59STD」をマウント。プレイヤーを絶叫させるスズミに満ちています。フィニッシュは、バレイアーツレギュラー仕様ニトロセルローズ・ラッカー。年数を重ねるとともに増す渋みは、エフホールにこそ相応しいものです。